

◆佐渡金銀山の情報をお伝えします



佐渡金銀山だより

Sado Gold and Silver Mine Newsletter



Vol.3
2011.3.31

◆「佐渡鉱山 秋の夕べ」
音楽演奏 シティバンド両津

▲北沢浮遊選鉱場



50mシクナー

佐渡金銀山はユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載されました

2010年11月22日、佐渡金銀山は「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」
“The Sado Complex of Heritage Mines, Primarily Gold Mines”の名称
で、ユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載されました。

Sado Gold and Silver Mine Newsletter 第3号 INDEX

- 2～3 国史跡追加指定 佐渡金銀山遺跡 鶴子銀山跡
- 4 …… 世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」
- 5 …… 国際シンポジウム関連イベント・佐渡金銀山講演会
- 6 …… 調査・研究の報告
- 7 …… 佐渡金銀山 文学碑を訪ねて①・パネル展・説明会・祈念茶会
- 8 …… 世界遺産推進基金の創設・これからの行事予定・H22年度 活動報告



国史跡 佐渡金銀山遺跡 鶴子銀山跡
大滝間歩跡（沢根五十里）

国史跡
追加指定

佐渡金銀山遺跡 鶴子銀山跡

佐渡金山遺跡として、これまでに^{どうゆう}道遊の^{わりと}割戸、佐渡奉行所跡など7か所の遺跡が平成6年5月24日に国史跡に指定されています。平成21年7月23日には、^{いしうす}鉱山用の石磨(上磨)の石材を切り出した^{ふきあげかいがんいしきり}吹上海岸石切場跡が、平成22年2月22日には、日本の^{つるし}鉱山の近代化をリードした旧佐渡^あ鉱山の施設群が、それぞれ国史跡に追加指定されています。

平成23年2月7日、相川金銀山開発の端緒となった^{つるし}鶴子銀山跡が国史跡に追加指定されました。今回の追加指定を受けて、史跡名称が「佐渡金山遺跡」から「**佐渡金銀山遺跡**」へ変更となります。



鶴子銀山跡

沢根から沢根五十里^{いかり}にかけての山中にある鶴子銀山跡は、天文11年(1542)に越後国(現在の新潟県)の商人であった^{とやまも}外山茂右衛門^{うえもん}によって発見されたと伝えられています。茂右衛門は、沢根の領主であった沢根本間氏に1か月につき銀100枚を納めることで採掘許可を得たといわれ、この故事が由来となった「百枚平」、「百枚間歩」などの地名や間歩^{まぶ}名が残されています。また、茂右衛門が銀の採掘を行ったとされる百枚平では、今も露頭^あ鉱脈を採掘した巨大な露頭掘り跡が数多く確認されており、盛んに採掘が行われていた様子がうかがえます。

天正17年(1589)、越後国の大名上杉景勝によって佐渡が平定されると、山口右京が代官として派遣され、銀山を統括しました。文禄4年(1595)には、石見国(現在の島根県)の山師^{ほんぐち}によって、本口間歩に「横相」と呼ばれる坑内の排水を兼ねた坑道掘りの技術が佐渡で初めて導入されました。



鶴子銀山跡遠景

戦国時代末期～江戸時代初期には、「鶴子千軒」と呼ばれる繁栄期を迎えることとなり、銀山に近い場所に^あ鉱山集落が形成され、坑夫たちが住んだ大工町や干魚・塩魚類をあつかう商人が集まった四十物町の家並みことができました。また、慶長元年(1596)には真野湾に面した沢根港に港町が形成されました。



百枚平に残る戦国時代の「露頭掘り」跡



鶴子沢に残る戦国時代の「ひ押し掘り」跡



大滝地区の石垣



鶴子銀山 代官屋敷跡

鶴子銀山の発展は、佐渡島内の鉱山開発に影響を与え、鶴子銀山の山師らによって、相川で良質の金銀鉱脈が発見されることにつながりました。慶長8年(1603)、大久保長安の命令により、鶴子銀山に置かれていた代官所(後の佐渡奉行所)が相川へ移され、鉱山集落も相川へと移転していきました。

江戸時代の鶴子銀山は、江戸時代前期に山師の秋田権右衛門によって再興された時期もありましたが、次第に銀の産出量が減少し、宝暦年間(1751～1764)以降は、主に銅を中心として採掘が続けられました。江戸時代後期には、弥十郎間歩が奉行所直営の鉱区の1つとなり、佐渡奉行川路聖謨や幕末の思想家吉田松陰らが視察に訪れています。

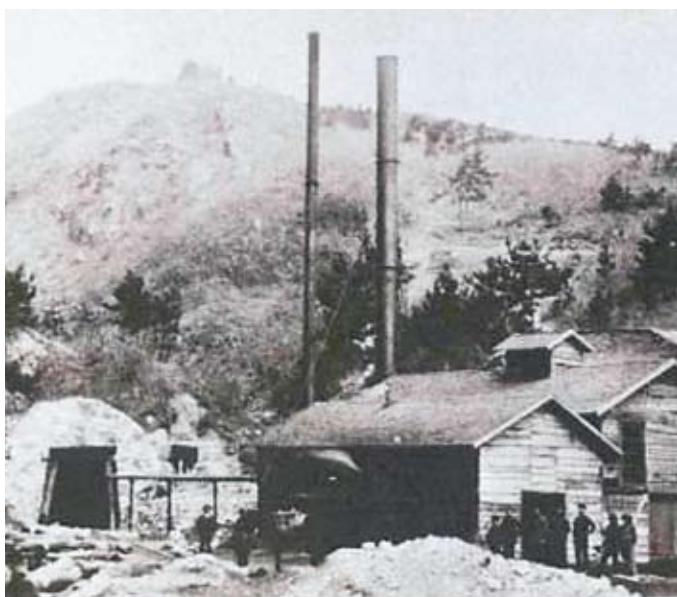


佐州金銀山之内弥十郎間歩舗内墨引〔部分〕

明治時代に入ると、佐渡鉱山のある相川鉱区に組み込まれ、鶴子坑・百枚坑・弥十郎坑を中心に坑道の整備や堅坑の開削、鶴子～相川間の架空索道(ロープウェイ)による鉱石運搬などの近代化が図られました。昭和に入っても採掘が続けられましたが、鉱石枯渇により昭和21年(1946)に閉山となりました。

鶴子銀山跡には、戦国時代から閉山に至るまでの採掘跡が今でも数多く残されており、佐渡の鉱山採掘システムの変遷を見ることができます。また、銀山に隣接して戦国時代末から江戸時代初期にかけて存在したとされる代官屋敷跡や鉱山集落のあった鶴子荒町遺跡といった銀山と関係の深い遺跡も残されています。

今回の国史跡への追加指定は、鶴子銀山跡が相川金銀山開発の契機となったことから、佐渡の鉱山史の中でも重要な遺跡と位置づけられ、戦国時代後期から近代にかけての採掘跡をはじめとする遺構が現在も良好に残されていることが評価されたものです。



鶴子坑古写真



発掘調査現地説明会

世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」

平成22年10月17日(日)、佐渡市あいかわ開発総合センターにおいて、世界遺産国際シンポジウム「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を開催しました。佐渡市民など240名が参加し、イギリスの産業遺産専門家マイルズ・オグリソープ博士による基調講演の後、佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会委員を中心とした専門家が、佐渡金銀山の世界遺産としての価値や遺跡の保存・整備及び活用について意見交換を行いました。

◆基調講演「佐渡金銀山の産業遺産としての評価」

マイルズ・オグリソープ氏（ヒストリック・スコットランド政策責任者、国際産業遺産保存委員会英国代表）

- ・佐渡のように鉱山技術が時系列的に保存され、史料が多く残されている鉱山は世界のどこにもなく、国際的にも重要性のある遺産である。
- ・日本はもっと産業遺産に誇りを持つべきだ。とりわけ佐渡には特別な金属である“金”に関するすばらしい産業遺産がある。
- ・世界遺産登録に向けた準備には、登録そのものと同じくらいの価値がある。



◆パネルディスカッション「産業遺産としての佐渡金銀山の価値と今後の整備・活用」

■パネリスト…マイルズ・オグリソープ氏、稲葉信子氏（筑波大学大学院教授）、澤邊一郎氏（ゴールデン佐渡取締役社長）、篠原修氏（政策研究大学院大学教授）、本中眞氏（文化庁記念物課主任文化財調査官）

■コーディネーター…小風秀雅氏（お茶の水女子大学大学院教授）



オグリソープ氏

世界遺産への住民参加の利点の1つは、住民がそこから独自の価値や楽しみ方、また活動へのモチベーションを得られることにある。これから佐渡はそのような貴重な経験をしていくことになる。



篠原氏

遺跡を“勉強の場”のように堅苦しく捉えず、“我々の場所”という意識をもって、現代の私たちの生活に合うように楽しみながら活用していく姿勢が必要だ。暫定一覧表入りを契機に、佐渡がいかに元気なまちをつくっていくかが重要である。



稲葉氏

佐渡の様々な価値をできるだけ拾い上げ、その中から世界遺産として世界に打ち出していく価値に絞り上げていく必要がある。しかし、世界遺産の推薦書に書かれたことだけが佐渡の価値ではない。様々な価値があつてこそその佐渡であることを忘れてはならない。



本中氏

世界遺産としての価値を、住民みんなで合意した上で共有する努力を欠いてはならない。佐渡にとって大切なものは、そこに存在したもの、そこで生きた人々すべてである。世界遺産になるものだけでなく、佐渡の様々なものに光を当てていく作業が必要だ。



澤邊氏

佐渡金銀山には、現代の最先端の鉱山と同じような施設が備わっていた。今後は、未公開の坑道を見学できるように整備して公開するとともに、専門家の指導を受けながら老朽化が進む施設の保存・整備に取り組んでいく。



小風氏

佐渡金銀山の価値の研究は、世界遺産登録後も継続し、その価値をさらに高めていく必要がある。世界遺産登録はあくまでも結果であり、まず自分たちの遺産をもう一度見直すところから取り組みを始めていくことが重要だ。



国際シンポジウム関連イベント

シンポジウム前日の夕方には北沢浮遊選鉱場前広場で、講演会・音楽会「佐渡鉱山 秋の夕べ」を開催しました。ライトアップされた遺跡の前で、往時の金銀山の繁栄に思いを馳せながら、参加者は篠原修氏の講演とシティバンド両津による音楽演奏を楽しみました。

また、当日午前には近代化遺産等見学ウォークを開催し、参加者は日本の近代化を支えた鉱山施設やかつての鉱山町の面影を残すまちなみを楽しく巡りました。



◆講演「今、何故、遺産・文化・景観なのか」

篠原修氏（政策研究大学院大学教授）

・物質的に豊かになってくると、遺産や文化・景観といった、これまで生活の役に立たないと言われていたものが人々をひきつけるようになってきた。これからは佐渡も、今まであまり意識しなかった文化財をもっと活用してほしい。



・人々が真に豊かになるためには、自分の居場所をつくり、人間関係を回復することが重要だ。
・相川は、自分の居場所があつて、人との絆を感じられ、さらには先祖からの歴史とつながっていけるような「いいまち」になり得ると思う。世界遺産登録を契機に、なかなか個人ではほしくても手に入らない「いいまち」をつくっていくことが、佐渡の、特に相川の目的ではないか。

佐 渡 金 銀 山 講 演 会

平成22年11月27日(土)、新潟市の朱鷺メッセ・中会議室において、新潟県「佐渡金銀山」世界遺産登録推進議員連盟の主催による佐渡金銀山講演会が開催されました。市民など180名が参加し、佐渡市の担当職員が鶴子銀山の調査成果について報告した後、九州大学名誉教授の井澤英二氏が佐渡鉱山の鉱石の特徴と佐渡金銀山絵巻について講演しました。

◆講演「佐渡鉱山に産出した金銀鉱石の特徴」

17世紀の佐渡は世界の金の1割を産出した大金山の島だった。佐渡の鉱石は硬い石英の中に0.01mmほどの微細な金銀鉱物を含んでいた。こうした鉱石から金銀の合金をとり出し、さらに金と銀を分離して小判をつくっていたことから、江戸時代の佐渡にはかなり高度な鉱山技術があったと言える。こうした技術がどのように佐渡に入ってきたのかを検証していくことが、世界遺産登録のポイントになるのではないかな。

◆講演「佐渡金銀山絵巻について」

佐渡金銀山絵巻は徳川吉宗の命令で初めてつくられ、その後は佐渡奉行の交代や新たな技術の導入の際に描かれてきた。絵巻には採鉱、選鉱、製錬の技術が連続的に詳しく描かれている。現在100点をこえる佐渡金銀山絵巻が国内外にあることがわかっている。



西三川砂金山遺跡 分布調査 速報

佐渡市では、平成19年度から西三川砂金山遺跡の分布調査を実施しており、平成22年10月20日から、西三川砂金山の採掘地の1つである五社屋山周辺の測量調査を実施しています。

この五社屋山は、かつて西三川砂金山の中心地として栄えた真野地区西三川地内の笹川集落の北東約1kmに位置しています。今回の調査で、砂金流し用の水路跡や、その水を溜めた堤跡のほか、砂金を含む山を掘り崩した際に出たガラ石の捨て場や、ガラ石をコの字状に積んで鍛冶小屋や作業小屋に使われたと想定される石組遺構などが良好に残されていることが判明しました。

五社屋山地区は、砂金採取の一連の作業工程を解明する上で非常に重要な地区であることから、今後は専門家の指導を受けながら調査結果をまとめ、西三川砂金山遺跡の国史跡指定に向けた準備を進めていきたいと考えています。

水路跡とガラ石



石組遺構

◆佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会

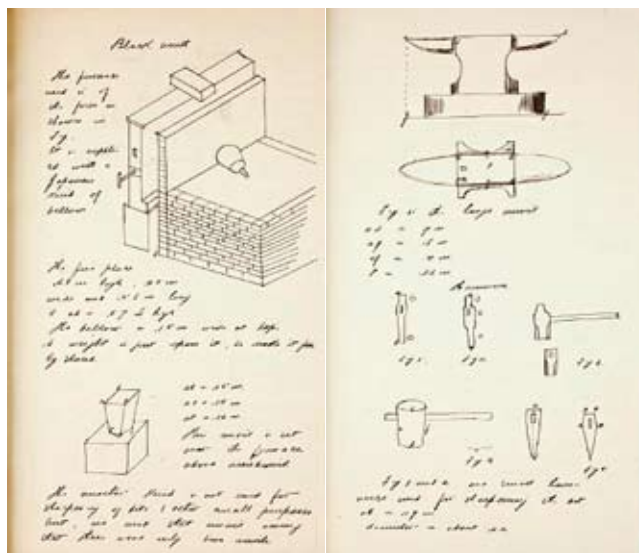


新潟県と佐渡市は、歴史や建築・景観等の専門家8名からなる「佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会」を設置し、ユネスコに提出する推薦書案の検討を開始しました。

平成22年9月24日に開催した第1回委員会では、お茶の水女子大学大学院教授の小風秀雅氏が委員長に選任され、佐渡金銀山の構成資産候補について意見を交換しました。また、平成23年1月20日には第2回委員会を開催し、佐渡における鉱山技術の変遷について議論しました。

学術委員会は今後も年に数回開催し、推薦書案のコンセプトや構成資産について検討を重ねていきます。

◆近代佐渡鉱山の価値を明らかにするための調査委託



新潟県は、近代佐渡鉱山の技術や経営手法の解明、海外に流出した金が国際経済に与えた影響等を調査するため、平成21年度よりお茶の水女子大学大学院教授の小風秀雅氏を中心とする研究グループに調査を委託し、研究を進めてきました。

平成22年度は、三菱史料館や宮内庁書陵部における史料調査、東京大学などの旧帝国大学が所蔵する鉱山の実習報文の調査等を行うとともに、幕末から明治初期にかけての海外への金流出や近代佐渡鉱山の技術の変遷についての研究を行い、報告書にまとめました。

調査委託は平成23年度以降も継続し、近代佐渡鉱山の価値を明らかにするため、さらに調査・研究を進めていきます。

◆「実習報文」の一部

(東京大学工学・情報理工学図書館工4号館図書室A所蔵)

佐渡金銀山 文学碑を訪ねて①

佐渡金銀山へは、幸田露伴や与謝野鉄幹・晶子など多くの文人が訪れ、道遊の割戸周辺には、金銀山にまつわる文学碑が建てられています。

今回は大立公園にある芥川賞作家津村節子さんの文学碑を紹介します。水替無宿の青年と遊女の愛を描いた小説『海鳴』の一節が刻まれています。



〔碑文〕

「慶長六年に三浦治兵衛ら 三人の山師に発見された鉱脈は 鮎川の溪谷をさかのぼり 鬱蒼とした茂みをぬけたところに 燦然と その露頭を現していた」

文人たちの思いが込められた文学碑を1つ1つ訪ねてみませんか。



世界遺産暫定一覧表記載記念パネル展

世界遺産暫定一覧表への追加記載決定を受け、平成22年11月19日から23日まで「佐渡を世界遺産にする会」が、新潟市の東北電力グリーンプラザにおいてパネル展を開催しました。

特別企画として、赤泊の山田やまびこ会による佐渡おけさなどが披露され、来場した多くの人の目を楽しませていました。また、最終日には佐渡金銀山ミニ講座も開催され、参加者は佐渡金銀山についての知識を深めていました。今後、佐渡を世界遺産にする会では、島内だけでなく、県内外に向け情報発信をしていきます。



山田やまびこ会の芸能披露

日には佐渡金銀山ミニ講座も開催され、参加者は佐渡金銀山についての知識を深めていました。今後、佐渡を世界遺産にする会では、島内だけでなく、県内外に向け情報発信をしていきます。



パネル展会場のようす

鶴子銀山見学会・発掘調査説明会

平成22年11月6日(土)、戦国時代から開発が進められたとされる鶴子銀山の見学会・発掘調査説明会を開催しました。参加者は、銀を製錬していた場所と考えられる鶴子床屋跡、坑道掘りによる採掘が行われた大滝間歩跡、山師の秋田権右衛門の墓などを見学しました。また、代官屋敷跡の発掘現場では、遺構や遺物の出土状況を見学し、調査担当者の説明に聞き入っていました。



鶴子銀山 代官屋敷跡の発掘現場説明会



世界遺産登録祈念茶会

平成22年11月7日(日) 佐渡金銀山遺跡の世界文化遺産登録実現を願って、裏千家の相茶会が相川で「世界遺産登録祈念茶会」を開催しました。

会場の佐渡奉行所には、400人をこえる来場者があり、金銀をテーマに趣向をこらした2つの茶席でお点前を楽しんでいました。



黄金の島の歴史を未来へ ～世界遺産推進基金を創設しました～

佐渡市では、佐渡金銀山が世界遺産暫定一覧表に記載されたことを受けて、構成資産の保存・整備を中心に、市や市民・企業等が一体となって世界遺産登録の早期実現に向けて取り組むための基金を創設しました。

基金は市が1億円を拠出し、「佐渡ふるさと島づくり寄付金（ふるさと納税）」などの寄付金を積み立てるものです。

基金の運用は平成24年度からで、文化的景観選定地区や予定地区内の町並み・石垣等の修復、鉱山絵巻や佐渡小判・印銀などの収集に充てることにしています。

基金への寄付の方法や概要について、改めてパンフレットでご案内いたします。多くの皆様の温かいご支援・ご協力をお願いいたします。



これからの行事予定（平成23年度）都合により変更する場合があります

4/16(土)	佐渡金銀山講座（直江津学びの交流館）
7/16(土)	佐渡金銀山講演会（表参道新潟館ネスパス）
8/27(土)	親子で歩く世界遺産
9/中旬	鶴子銀山現地説明会
10/下旬	西三川文化的景観シンポジウム
11/19(土)	佐渡金銀山講演会（アミューズメント佐渡）
3/20(祝)	佐渡金銀山国際シンポジウム
11月・3月	歴史の道を歩こう

6/12(日)	世界遺産連続講座①（新潟大学駅南キャンパス）
7/ 3(日)	世界遺産連続講座②（ ” ）
8/27(土)	世界遺産連続講座③（ ” ）
6/18(土)	世界遺産連続講座①（佐渡市）
7/9(土)	世界遺産連続講座②（ ” ）
8/6(土)	世界遺産連続講座③（ ” ）
9/10(土)	世界遺産連続講座④（ ” ）
10/15(土)	世界遺産連続講座⑤（ ” ）

平成22年度 活動報告

○講座・イベント	
5/15	西三川砂金山現地見学会
6/6・19・7/10・ 8/7・9/18・ 10/2・11/14	世界遺産連続講座（会場 佐渡市）
6/12・7/31・8/21	世界遺産連続講座（会場 新潟市）
6/27	シンポジウム 「佐渡金銀山の魅力と世界遺産登録に向けて」
8/28	親子で歩く世界遺産（西三川編）
10/16	講演会・音楽会「佐渡鉱山 秋の夕べ」
10/17	近代化遺産等見学ウォーク
10/17	世界遺産国際シンポジウム 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」
11/6	鶴子銀山見学会・発掘調査説明会
11/8	世界遺産学習会（佐渡市世界遺産登録推進議員連盟）
11/27	佐渡金銀山講演会
2/10・18・25・ 3/18・25	佐渡の世界遺産を考えるつどい
3/6	相川地区文化的景観調査中間報告会
3/6	第5回佐渡世界遺産フォーラム 「佐渡ジオパークと世界遺産教育」
随時	小中学校出前授業
随時	地域出張説明会
○パネル展示	
11/19～23	東北電力グリーンプラザ
2/ 1～28	新潟県信用組合駅前支店
2/ 5～3/27	新潟県立近代美術館

○調査・委員会	
4月～3月	近代化遺産調査
	建造物調査
	相川地区文化的景観調査
	佐渡奉行所跡出土品科学分析調査
4月～12月	西三川文化的景観調査
4月・11～12月	新穂銀山分布調査
5月～10月	鶴子銀山発掘調査
10月～12月	西三川砂金山分布調査
5/20・9/13・ 12/13・2/14	史跡佐渡金銀山遺跡保存管理計画策定委員 4回
5/21・8/4～5・ 9/9・12/3・3/4	調査委託研究会 5回
7/26～30	東京大学実習報告書調査
8/ 8～22	フィンランドでの国際会議参加、欧州の世界遺産視察
8/10・11/19・ 3/7	佐渡金銀山調査指導委員会 文化的景観専門分野会議 3回
8/17～20	秋田県鉱山史料調査
8/30～9/ 2	第2回絵巻検討会
9/8	新潟県世界遺産登録推進議員連盟の富岡製糸場視察
9/24・1/20	佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会 2回
10/4・3/2	佐渡金銀山調査指導委員会 遺跡・建造物専門会議 2回
10/25～28	鹿児島県鉱山調査
11/28	鶴子銀山坑道調査
1/12	第1回新潟県佐渡金銀山世界遺産登録推進連絡会議
3/9～11	鶴子銀山坑道ロボット調査

新潟県・佐渡市

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室

TEL025-280-5726

E-mail ngt500080@pref.niigata.lg.jp

佐渡市世界遺産推進課 TEL0259-63-5136

E-mail k-goldmine@city.sado.niigata.jp

平成23年3月31日発行